

# 佐賀市 10 歴史探訪

## こう でん じ すぎ ど 高伝寺の杉戸

高伝寺は佐賀藩鍋島家の菩提寺です。墓所には鍋島家・龍造寺家の石塔群が林立し、一大景観を形成しています。また、同寺は梅の名所でもあり、境内、墓所を中心に植栽されていて、開花期には紅梅、白梅が咲き乱れ、多数の見学者が訪れています。

このお寺には、大涅槃像、鍋島勝茂の子で若くしてなくなった忠直の坐像、御位牌所などの文化財があることが知られていますが、平成10年、11年に実施された佐賀城本丸御殿復元資料調査において、佐賀城の御殿に関係すると考えられる高伝寺の板戸、衝立も調査がなされました。

衝立は杉戸を再利用したもので、庫裏の玄関に置かれ、杉戸は本堂などで使われています。これらには、鶴や虎、人物が鮮やかな色彩で描かれています。

これらの杉戸は佐賀城御殿で使われていたものとの伝承が以前からありましたが、それが事実なのか確認されていませんでした。

調査では、杉戸の寸法に注目しました。それによると、普通の家屋のものより大型であり、佐賀城本丸御殿のような大規模な建物に使われていた可能性が高いという調査結果が得られました。

この杉戸の優雅さを感じながら、佐賀城本丸御殿に思いをはせて見ませんか。



### 一口メモ

本堂のご本尊の左側に小さな建築物があります。これは高伝寺釈迦堂といい、その内部には「お釈迦様」と文殊菩薩像、普賢菩薩像が安置されています。

これらは鍋島勝茂が承応2年(1653)に長崎で購入させた赤梅檀(しゃくせんだん=香木的一种)を用いて承応4年に京の仏師、宗仁に制作させたものです。

